

会 議 録

平成 24 年 11 月 30 日調製

審議会等名	平成 24 年度 第 2 回図書館協議会
公開の別	全部公開
開催日時	平成 24 年 11 月 13 日(火) 午後 2 時～4 時
開催場所	三条市立裏館小学校 1 階 会議室
傍聴者の有無	有
出席者氏名	宮島泉委員長 捧礼子副委員長 小林修委員 平井幸子委員 後藤美智子委員 渡邊英美委員 本井晴信委員 米山文子委員 田村光子委員 小出和子委員 説明のための職員 金子生涯学習課長 石崎生涯学習課長補佐 長谷川文化振興係長 指定管理者 太向館長 菊崎業務責任者 佐藤副責任者 瀧澤副責任者 竹内副責任者 村山副責任者
協議題	(1) 平成 24 年度上半期の利用状況について (2) その他
生涯学習課長	あいさつ
宮島委員長	それでは協議題(1)平成 24 年度上半期の図書館利用状況について説明いただきたい。
図書館長	(資料 No.1・2 に基づき説明)
本井委員	自分で自主的にテーマを見つけて取り組み、自分なりに解決する、答えを出していくというのを経験するのは非常に大事なことで、長く続けてもらいたいと思うが、こういう経験をしない大人もたくさんいて、大人向けの機会も考えたほうが良いと思う。レファレンスを受け付けることで普段から図書館は苦労しながら対応していると思うが、大人に対しても何かもっと有効な手立てがないかを感じる。それはここだけの話ではなく、どこでも共通のことだが、そんなことを感じた。
後藤委員	裏館小学校の先生方もだいぶ勉強をされたのではないかと思いますし、これだけの取り組みをしてあげれば、子どもたちも勉強態度が身につくだろうと思う。保育園でも、自分で考える子どもを育てるにはどうしていったらよいか課題である。
米山委員	保育所時代や小学校時代は、図書館を利用したり調べたりするが、中学校になるとたんに、いわゆる高校受験のための勉強や部活等になってしまう。中学校・高校の生徒というのは、非常に図書館から足が離れる感じがする。例えば、今日の資料にある「中学生一日図書館員」の参加者は、10 名募集してたったの 1 名である。小学校の時はとても楽しく調べたのに、中学校・高校になるとバーンと離れてしまうのを、何とかつなぎとめる方法はないものか。もちろんすべての生徒でなくてよいのだが、少なくとも、例えばこういう一日図書館体験の時に、せめて 5 人ぐらいは集まってほしい。図書館の方も多分そう感じていらっしゃるだろうが、何かいい方法はないものだろうかと思う。
平井委員	2 点お願いしたい。1 点目は、裏館小学校での調べ学習授業には協力体制がすごくあったと思うが、毎年こういう形でどこかの学校とタイアップして行っている、というシステムがあるのか。

図書館長	<p>今年度調べ学習の推進をどのように行っていくか、前年度の段階で、読書教育の中心校である裏館小学校の小林校長先生にご相談させていただき、モデル校になっていただいて、実践的に取り組ませていただけることになった。今年度初めてそれにトライしてみたということで、ご指導・ご協力いただいた先生方から、今回見えた課題等について伺い、反省会をさせていただいて、来年度はどのように取り組めばよいかを考えたいと思っている。そういう段階で、まだシステム化まではしていない。</p>
平井委員	<p>小学校の総合学習をやっている立場として、このように一人ひとりがテーマを決め自力解決をして、冊子にまとめるというのは至難の業である。協力体制がすごくあり、しかも体験学習も組まれていて、かなり大勢のスタッフと施設・環境が整ってここまで来れた、というのが実際だと思う。普通の学校でこのように行うのはかなり難しい。市立図書館が全面的に協力するのは不可能だと思うが、情報提供なり、総合学習・自力解決学習を進めやすいサービスがいただけるといいと感じている。</p> <p>2点目として、中学生の「一日図書館員」が1人という実態だったが、中学校では夏休み中に職業体験を結構やっている。どこかの中学校とタイアップして、図書館の司書になりたい生徒とかに、割り当てのような形で経験してもらうのはどうか。</p>
図書館長	<p>職場体験の申込は夏に毎年複数校ある。1校から数名の生徒さんが申し込んでこられ、重なりすぎない限りお受けしている。今年の実績をご紹介しますと、第一中学校の2年生1名が8月1日から3日まで3日間、第三中学校2年生7名が8月6日から3日間、第一中学校の2年生6名が8月22日一日。また、県立燕中等学校の2年生と3年生10名が8月23日に、翌24日に本成寺中学校2年生5名が、そして第二中学校3年生12名が、つい先日の11月1日、体験学習ではないが「地域貢献活動」ということで来られている。このほか、調べ学習での来館も参考までに申し上げますと、大崎中学校1年生6名が10月10日に来られ、館内案内の後質問を受けている。それから第一中学校1年生33名が10月18日に、館内自由見学という形で来られている。このように、中学校側からの申込で来ていただく形のものも数々実施している。</p>
平井委員	<p>図書館主催の事業としての「一日図書館員」だったということか。わかった。</p>
宮島委員長	<p>図書館で企画し、学校の方から来る体験学習とは別の事業として、どのような目的で、どのような告知・案内をしたのか。また、図書館としてそれをやる意味がどこにあったのかを、少し説明願いたい。</p>
村山副責任者	<p>「中学生一日図書館員」の告知は、各学校に案内のポスターを1部ずつ送らせていただいたほか、中高生の利用が多い図書館の学習室にも案内のポスターやチラシを置いて、告知に努めた。ただ、このように学校から職場体験で来ることも多いので、「わざわざ自分で来なくてもそれで来ればいい」と思うお子さんも多いと感じた。</p>
図書館長	<p>「職場体験」との違いについてももう一言申し上げますと、職場体験に来る生徒さんたちはどのように選ばれてくるのか事情を承知していないが、それには入れなかった、学校からは来られなかったけれども個人として「図書館の仕事を体験してみたい」という子どもさんに、「一日図書館員」に応募いただけるようにしている。</p>
宮島委員長	<p>「職場体験」はおそらく、企業とかがたくさんある中から、「私たちは図書館に行きたい」と選ぶのだと思う。</p>

米山委員	「中学生一日図書館員」は休館日に行ったようだが、私も長岡市立図書館で小学生対象のものを1回経験したことがある。それは休館日ではなく普通の開館日で、お話会の読み聞かせのお手伝いとか、図書館の運営的なお手伝いをした。そのような例もある。
図書館長	参考にしたい。私共が休館日に行っているのは、例えばブックポストに夜間のうちに大量に返される本の返却作業とか、書架の整理や資料の修理をゆっくりしていただくためである。開館日にブックポストの作業をやってもらうのは難しい。
米山委員	つまり、裏方の仕事をしてもらうということか。
図書館長	今のところ私共には、スタッフが普段どのような仕事をしているかを一緒に体験してもらうという考え方が強い。お教えいただいた他館の取り組みもまた違った方法だと思うので、今後検討してみたいと思う。
米山委員	中学校の職場体験はみな開館日だ。これを続けるのであれば、逆に休館日を売りにする方法もあるかと思う。職場体験はほとんど中2の夏休みが多く、希望性の学校もあれば、ある程度振り分ける学校もあって、中には「本当は図書館に来たいわけじゃなかった」というお子さんもいるかもしれない。それぞれの中学校の先生方の対応も違うような気がする。中学生・高校生ぐらいは、あまり親と一緒に行動しなくなるし、部活が忙しい、ゲームするのに忙しい、パソコンにしがみついている、みたいになり、自分から図書館には本当に来ない。そういう年代だと思う。放っておくのも一つだろうが、やはり図書館や本に親しむ、一生本を読むためには、一番重要な時期かとも思う。そう言いながら、その後の考えが続かないのだが。
捧副委員長	10年ぐらい前は、職場体験の選択肢に図書館はなかったと思う。学校側で「この企業、この企業」と選択肢が用意され、生徒はグループを組み、「では何グループはこの企業、何グループはこの企業」という形で、希望性ではなかった。だから、こういう形で図書館を希望する子どもが体験できるのはよい機会だと思う。私は実際に「親子で一日図書館員」に参加したのだが、小学生と保護者で「ブックポストの返却はどういうふうになっているの」とか、資料にコートをかける、修理をする等を体験できた。多分開館日だと職員も忙しいから、できないだろうと思う。休館日に行って私も楽しかったし、今年参加した中学生は1人だったが、それはそれでいいのではないかと思う。学習室や1階の閲覧席で勉強している子どもも結構見かけるので、そういう子どもたちが図書館の仕事に触れる場所・回数を増やす意味で、私はいいなと思った。
宮島委員長	告知だが、学校に案内を出すのも当然必要だろうし、貼ってもらえれば目にできるが、しかし一番効くのはやはり、手渡しとか口コミだと思う。図書館に興味のある子はやはり、子ども読書コーナーあたりでよく宿題をしたりしているし、そういう子どもたちに、小さいチラシでいいので、「こんなのがあるよ」と図書館の方が直接手渡しでくださる、そういう融通があってもいいのかなと思う。そこに置いてあって「ご自由にどうぞ」というより、にこやかに渡されれば、「ああ、楽しそう。興味もあるし、行こうかな」と。さらに「特別なことができるのよ」みたいな一言があると、より興味を引くのかなという気がした。大勢に知らせることももちろんだが、やはり興味の濃い・薄いがあるので、濃いめなところに集中的にこちらから声をかけると効果が

	きいかと、今皆さんの話を聞いていて感じた。
田村委員	スタンプラリーでは景品をあげると書いてあるが、どんな景品をあげたのか。
村山副責任者	図書館で購入している雑誌の付録を1個ずつ、選んでもらってさし上げた。エコバッグとか文房具のようなものも多かったし、子ども向けのテレビ雑誌ではヒーローのカードとかシールが多く、喜んで持って行っていただけた。
田村委員	本当に人気がある。暮れには確か、婦人雑誌の景品をくれるというのもあったと思うが、あれは『主婦の友』のような雑誌の景品なのか。新聞で見て「何をくれるんだろう」と思ったことがある。
村山副責任者	そのような婦人雑誌の付録を1年分まとめてあるので、応募していただき、人気があるため抽選をして、さし上げている。
田村委員	今回の資料を見ると、子どもの利用者の人数が、本館はプラスだがマイナスも出ているので、もっといっぱい利用してもらえよいい考えがあるといいなと思っている。借りた人には、キャンペーンの時期でなくても、チャレンジとかスタンプなど何かがあると、喜んで借りてくれるのかなと思った。
小出委員	私も資料を見て、マイナスが多いなと思ったが、今日の説明を聞いて、自動車文庫の利用も増えているし、今日裏館小学校を見せていただいたように学校図書館も充実しているから、わざわざ図書館まで行かなくてもいいという子どもも多いのかなと感じた。今年の夏は特に暑かったので、外へ出てわざわざ図書館まで歩いていくのが億劫だった子どもさんや大人の方もいらっしゃったのかなと、そんな感想を持った。
宮島委員長	夏は暑いから図書館へ涼みに来るという方もたくさんいらっしゃるのだろうが、来るだけでなく、借りることに結びつく一押しが、もっと何か必要なのかと思う。
渡邊委員	私は中学生の親だが、本当に図書館離れたと思う。どうしても中学生になると足が遠のくし、本自体に興味がなくなる。自分が気に入ったジャンルにしか興味を持たないのが普通である。なので、調べ学習をていねいに展開して広がってくれればいいと思うし、図書館の学習室に来る子どもたちも取り込めないだろうかと思う。
本井委員	調べ学習のまとめの補足というか、感想だが、裏館小学校のレポートを見ると、子どもたちは大変ていねいに字を書いている。意図的に指導なさったのだろうと思うが、この世代の時にそれをやっておかないと、一生汚い字のままになる。どれが上手いか下手とかいうのはかなり主観的な問題だが、すんなりと違和感なく見られる・読める、見た目をきれいにまとめるというのは大切なことである。それについての指導は、すごくご苦労だっただろうと思う。
宮島委員長	ご意見は出尽くしたでしょうか。協議題(2)「その他」もないということなので、それでは以上で終了したい。 今日は裏館小学校さんの視察もさせていただいて大変有意義だった。いつものように会議をするだけではないという形で、調べ学習を中心に皆さんのいろいろないいご意見が出されて、本当によかったと思う。 それでは、本日の図書館協議会を終了する。ありがとうございました。